



下水道広報プラットホーム

令和4年度事業概要と成果



下水道を未来につなげる会（未来会）



下水道展「水ビジネスワークショップ」



日大理工学部出前講座



木更津高専

活動目的

下水道界の人材確保のため産官学が連携。**リクルート強化**。下水道の魅力を「学生」に発信し、「**未来の下水道パーソン**」を発掘。

めざす将来像

進路としての下水道界のイメージUP。SNS等による学びや感動の発信、記事の掲載を通して認知と理解、関心が拡大。水平展開（地方版未来会）で更に効果を高める。

R4の成果

進路としての下水道界のイメージUP（アンケート：下水道界の印象が変わった **90%以上**）が図られた。地方版未来会を通じて更に効果を高められた。（参加者数：**463名**）。

将来像に対する進捗

コロナ禍前と同数以上の**12回**のリアルイベントを通して、下水道業界で働く魅力を伝え、下水道の役割や今後の可能性等について理解してもらえた。

課題・改善策

同じ大学での継続実施が重要であり**イベント数はほぼ現状維持→効率的運営**体制を検討。メンバー同士の**交流の場を増やしたい→状況に応じて対応**。

総括

リアルイベントは下水道業界の魅力を伝える上で重要と感じた。リアルイベントでの対面などでメンバー同士の交流の場がくれた。

インフラテクコン



活動目的	高専の学生・教員と会員との接点を作る。下水道サービスをより良くする高専生らしい斬新なアイデアを発掘する。
めざす将来像	下水道に向き合い、課題を発掘し、解決策を考える機会を高専生に提供。より深い知識を付け、下水道で働きたいという思いを醸成。
R4の成果	下水道課題への挑戦（2チーム）、下水道に関連する課題解決の提案（2チーム）を通して、能動的に下水道の課題解決に取り組む機会を提供できた。
将来像に対する進捗	高専生が能動的に下水道の抱える課題を発掘し、解決策を考え、提案する機会を提供できた。
課題・改善策	アンケート（下水道に対する意識の変化等）の実施、G K P 賞を授賞した高専チームとの今後のつながり方などを検討。
総括	水インフラなどの提案が多く、協賛する意義がある。高専との関係性を途絶えさせない取り組みを検討する必要がある。

GKPチーム市民科学



情報交換会



発表会

活動目的

市民科学を通じて市民が下水道を自分ごと化し、下水道が支える地域の未来像を共有し、地域の新しい価値を創造するイノベーションにつなげることを目的とする。

めざす将来像

個別相談や勉強会・発表会等を通じて、「下水道の市民科学」の認知度向上、地域における「下水道の市民科学」の活動の推進を支援する。

R4の成果

情報交換会（44名）を開催。課題の解決策をみつける交流の場となった。発表会（85名）は、発表者・聴講者へ新たな気づきを与える会となった。

将来像に対する進捗

情報交換会に19団体が参加し、取り組む団体が少しずつ増え、ネットワークの土台が構築できつつある。導入支援のノウハウを蓄積してきている。

課題・改善策

下水道に特化した調査研究を行う団体はほぼなく、ゼロからの支援。地域の支援、学校単位の支援、水辺のNPOへの導入支援、情報発信などを検討。

総括

市民科学に関する気づきの場を提供、地域の体制づくりが進んだ団体もあった。引き続き相談活動、発表会・勉強会を開催、導入へ結び付けていく。

BISTRO下水道



勉強会



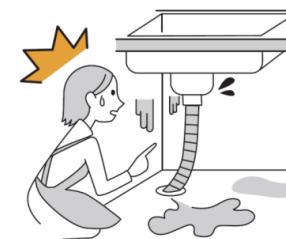
じゅんかん育ちのPR



実物の展示

活動目的	下水道資源の農業利用のさらなる進展。BISTRO下水道の農作物の安全性やおいしさを一般市民にも伝えていく。
めざす将来像	支援基盤（農家、じゅんかん育ちファンなど）の拡大。地域活性化。国家プロジェクトのような大きな取り組みを下支えする草の根運動的な活動を行う。
R4の成果	じゅんかん育ちのファン層を広げた。ファームでの勉強会（計8回）に延べ98人の農家が参加プロジェクト。
将来像に対する進捗	岸田首相による下水道資源の農業利用の拡大方針のもと施策支援のための活動を強化。地方公共団体等の参考となるような活動を進めていく。
課題・改善策	「じゅんかん育ち」の商標登録が求められる。日本下水道協会の協力を得てこれを取得、海外への輸出を検討している農家を支援したい。
総括	消費者におけるじゅんかん育ちの認知度が依然低い（アンケート調査）。BISTRO 下水道の普及推進とじゅんかん育ちのブランド力向上に努める。

キッチン・バス連携



■関連リンク

➢ 日本下水道協会『コップ1杯の油を流すと…』
<https://www.jswa.jp/suisuiland/3-4-6.html>

キッチン・バスHP「消費者の皆様へ」で、
油が下水道に与える影響をPR

活動目的

下水道の入口業界との連携促進。相互理解の関係を維持・活用し、各種プロジェクトの実践の場や手法などを拡大。**利用者に届きやすい広報を実施。**

めざす将来像

両業界に通じる課題に対応。連携広報を展開。下水道理解が利用者に広がり、**下水道の維持管理等に考慮した行動変容**が生まれ、**下水道事業が促進しやすくなる。**

R4の成果

キッチン・バス工業会の方々に**下水道を理解いただいた結果**として、同工業会より、**台所から先の影響を喚起する発信**をしていただけるようになった。台所お風呂の川柳に協賛、**川柳づくりを通した下水道の自分ゴト化**を推進。

将来像に対する進捗

両業界が連携して広報に取り組む地盤はできた。今後はいかにこの関係を維持していけるかがカギ。

課題・改善策

上記の通り、キッチン・バス工業会との関係維持が重要となる。

総括

下水道（台所・お風呂・トイレ）利用者の行動変容に向け、両業界が互いを理解し合う関係、協力し合える関係を維持したい。

GKP広報大賞



表彰式



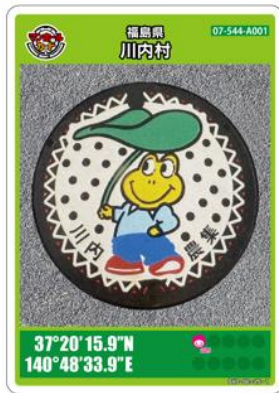
審査委員会



グランプリ堺市のマンホールウォーク

活動目的	広報の重要性が見直される機運創出。全国的に下水道広報がイキイキと元気に進められるよう熱を高め、優れた取組が広がるよう後押しする。
めざす将来像	業界では誰もが知るGKP広報大賞へ。下水道の認知・理解拡大が進み、下水道が市民により身近で愛される存在に。
R4の成果	審査がやりやすくなり、スムーズで視聴しやすい審査会が実現。GKP広報大賞で表彰されることの価値が向上。専門紙の取材増。
将来像に対する進捗	GKP広報大賞への関心度は依然低いですが、表彰の影響力は徐々に高まりつつある。
課題・改善策	担い手不足。継続性のある運営方法を検討。国交大臣賞との棲み分けも課題。事例を見やすく改善、横展開を後押し。
総括	応募しやすくなるように制度を見直した。メディア対応はさらなる推進が必要。横展開を支援する機会としてわいがやなど実施。

マンホールカード



マンホールカード 新たな展開

第17弾(左2枚)

- ・福島県川内村の農業集落排水事業
- ・日本下水道事業団のカード

第18弾(右2枚)

- ・UR都市機構のカード
- ・東京都小笠原村のコミュニティ・プラント

活動目的

市民にマンホールを起点とした**下水道事業の役割や重要性を理解**していただくこと。これらをさらに**地域活性化**につなげていただくこと。

めざす将来像

支援基盤（マスコミ、ファン等）の拡大。MCのコラボ企画を提案する企業などとの連携。メディアコラボレーションによる**PR、地域活性化の向上**。

R4の成果

マンホールカードの**発行要領を見直し**、農集排、JS、埼玉県下水道公社、UR都市機構、コミプラのカードを発行。

将来像に対する進捗

マンホールを起点に、下水道等が果たしている**役割や重要性について、多くの市民の理解を得る**と同時に、**地域活性化**へもつながっている。

課題・改善策

遠隔地や海外のマンホールカード等、**入手困難となるカードの転売問題の対応策**を検討中。

総括

目標としていたカード発行の要領を見直し、**農集排等の発行を達成**。海外版など新たな展開があり、今後はこれらの抱える課題等への対応が求められる。

東京湾大感謝祭



ステージで下水道の魅力をPR



来場者で賑わう下水道ブースとマンホール展示コーナー

活動目的	下水道の役割とパワーを紹介。国交省、9都県市と協賛企業およびGKPが官民一体で東京湾再生における下水道の役割を訴求。
めざす将来像	人が集まりやすい赤レンガ前広場への会場変更希望を事務局に提言。より多くの方にお越しいただけるイベントとする。
R4の成果	来場者2,100人で、目標の倍以上。環境に関心の高い方が多く、熱心に説明に耳を傾ける姿が目立った。
将来像に対する進捗	メインステージでの下水道PRは多くの来場者が参加。ステージの充実に向け、実行委員会編成後早急に取り組む。
課題・改善策	パネル等が各社団体の持ち込みで統一感なし。来場者目線では統一感があつた方が見やすいので、次回はパネル制作も検討。
総括	コロナで3年ぶりのリアル開催。生活者とのコミュニケーションを図る機会となり、説明員も楽しく参加。官民一体のPRも有意義であった。

マンホールサミット



メイン会場



全国のマンホール蓋が集合



重ね捺しスタンプ

活動目的	マンホールの蓋等の魅力を発信する。下水道の役割・機能の理解を促進。下水道の認知拡大。
めざす将来像	マンホール蓋から下水道の認知促進への施策。企画・運営の能力向上。人的リソース・財源リソースの拡充。
R4の成果	マンホールサミットin所沢を開催。来場者 14,000人 （目標6,000人(計画比 233%))。グッズ売上 1.2倍 。重ね捺しスタンプラリーの新イベント実施。
将来像に対する進捗	岡崎市開催に向け 政策広報、地域広報、広報の相乗効果等 を検討。予算的自立に向けた協賛枠拡大を検討。
課題・改善策	来場者対応等に課題。丁寧なマニュアル準備。 下水道認知につながる企画が不足 。
総括	下水道の理解促進やPJ遂行の方法に課題。 円滑な遂行、目的に沿った企画設定 を図る。

エコプロ



4,300人が来場



水の天使が水の循環をPR

活動目的	国内最大級の環境展示会の来場者（市民や小中学生クラス単位等）に向け、 生活に欠かすことのできない水循環を訴求。
めざす将来像	来場者へのより丁寧な対応（展示・説明方法）を検討。財源の確保が厳しくなる中、 協賛金のみで出展できる方法等 を検討。
R4の成果	4,300人 が来場。展示の分かりやすさのアンケートに「大変わかりやすかった」「わかりやすかった」が 9割 。見学者の 理解度が高かった 。
将来像に対する進捗	R4の目標数値を達成。ブースに入りきれない時間帯があるほど、 ブース規模に比して多くの来場。展示品質も向上。
課題・改善策	ブースが見学者であふれることがあるので、 説明の仕方等の工夫が必要 。 協賛金募集の方法や金額について十分な検討が必要 。
総括	実行委員会形式で効率よく進んだ。 説明員も来場者とふれあって意識が高まった 。協賛金の募集方法等については早くからの議論が必要。

下水道展（スイスイ下水道研究所）



活動目的

下水道展パブリックゾーンの一般来場者に対して**下水道事業を分かりやすく紹介する企画の協力**。

めざす将来像

下水道が市民生活に無くてはならないものと実感してもらう。そのための展示方法等の改善を図る。

R4の成果

下水道展'22東京におけるスイスイ下水道研究所の企画に協力。
来場者：**2,000人**。

将来像に対する進捗

これまで**9回の企画・運営に協力**した。その中で蓄積された**ノウハウを次の担当へ引き継ぐ段階**にある。

課題・改善策

開催地の自治体とのコラボで企画内容を検討するため、**ノウハウの伝達が難しい**。

総括

関係各所の人事異動を考慮した計画立案の必要性あり。会期中は**来場者数等の目標が達成**できた。

早慶レガッタ



下水道の整備で復活した早慶レガッタ



レースの様子をライブ配信

活動目的	隅田川の再生に下水道整備が深く関わっており、早慶レガッタを支えることを通じて、観客に下水道の価値を広く伝えていく。
めざす将来像	下水道と早慶レガッタの関係を、早慶レガッタの観客や関係者に理解してもらい、浸透させる。動画再生回数：20,000回。
R4の成果	レース合間で下水道動画、協賛企業動画配信。約14,800回（配信後1週間）（ユニーク視聴者数：約6,800）2023年2月10日現在：約16,000回再生。
将来像に対する進捗	学生スポーツは毎年、新規に本活動を認知する層が一定数いる。永続的に推進し、下水道の認知度を向上させる。
課題・改善策	会場に大型ビジョンを設置していた頃と今のライブ配信は評価方法が違う。大型ビジョンによる下水道広報とライブ配信視聴の効果の比較を行う。
総括	ライブ配信に注力し、下水道・協賛企業の認知度向上に貢献したい。

コミュニケーション研究会



活動目的	情報や課題を共有。団体会員の連携強化と団体会員のメリットを促進。 BtoC広報を学び、下水道ユーザーとの協働のあり方を習得。
めざす将来像	コミュ研主催で意見交換の場を提供し、コミュニケーションができるシステムづくりを行う。
R4の成果	広報セミナーとしてGKP広報大賞受賞者セミナーをオンラインで開催し、約 50名 が視聴した。
将来像に対する進捗	オンラインセミナーは視聴者とのコミュニケーションが取りづらいため、リアルとの ハイブリット 等で対応していく。
課題・改善策	YouTube配信など、広報テクニックの取得や下水道関係以外とのコラボなど 業界を超えて情報収集できる体制づくり 。
総括	コロナ禍で集まる機会が少ない中、一定の活動ができた。今後はさらに 業界を超えた活動 を進めていきたい。

わいがやトーク

活動目的	会員が関心を持つテーマを設定。講師の話を聴くだけでなく、会員を交えて自由に議論し、交流できる場を創出。
R4の成果	<p>2021年のGKP広報大賞グランプリを獲得した神戸市から岡野内晃代氏を迎え、グループディスカッションを交えながら広報担当者が直面しやすい課題の解決方法等について学んだ。</p> <p>日時：令和4年11月30日（水） 会場：日本下水道協会5階会議室 参加：22名</p>
課題・改善策	コロナ感染症対策の制限緩和を受け、開催頻度を上げていく。



岡野内氏

FIKA（フィカ）

活動目的	スウェーデン発祥の文化「Fika」（甘いものとコーヒーでゆったりとした時間を過ごす）のように、GKP会員が自発的に声をかけ合い、いつでもだれでも気軽に参加できる議論の場をつくる。
R4の成果	開催なし。
課題・改善策	活動する会員を増やしていく。また、Fikaの制度を一層周知していく。

GKP北海道



1,529人が来場



じゅんかん育ちを展示



マンホール総選挙

活動目的	下水道を広く市民に知ってもらう。
めざす将来像	下水道の大切さを理解してもらい今後の 下水道の発展 につなげる。 応分な下水道料金への理解 （＝下水道経営の安定化）。 人材リクルートの活性化 。
R4の成果	「下水道事業パネル展」来場者 1,529人 。企画は何れも来場者に 好評 を博した。
将来像に対する進捗	下水道の大切さの理解、応分な下水道料金への理解（＝下水道経営の安定化）、人材リクルートの活性化をめざすが、 到達点のない永遠の目標 である。
課題・改善策	じゅんかん育ち野菜の配布は、単に野菜がほしい来場者にも対応せざるを得なかった。せめて じゅんかん育ちが何であるかを理解してもらえよう改善 。
総括	皆様に 下水道の大切さや魅力を十分感じ取っていただけた 。「クイズ下水道王」は、下水道プロ集団による熱いクイズバトルに会場が特に盛り上がった。

GKP関西



広報イベント「下水道夏祭り」



GKP未来会が運営に協力

活動目的	関西地方における下水道広報に関わる様々な関係者が連携して 下水道広報を活性化していくためのプラットフォームを構築 する。
めざす将来像	自治体と民間企業が連携した広報活動、情報発信を通じて、 市民への下水道の認知、理解度を高める 。
R4の成果	8月に広報イベントを開催、 87人 の児童が参加。ほぼ全員が「 下水道を知るきっかけとなった 」、「 また参加したい 」と回答、年度当初の 目標を達成 。
将来像に対する進捗	R4より 神戸市・堺市がオブザーバー参加 。自治体としての活動の関わり方など引き続き、議論、検討。
課題・改善策	夏休み最終日のイベントは来場者が想定を下回った。R5は 事前の周知期間を設ける とともに、休日の開催など関係者との調整を図る。
総括	初年度の活動としては一定の結果を出し、 当初の目標を達成 。自治体の広報活動との連携など、次年度以降の活動を検討。

GKPチーム九州



下水道フェア福岡2022



北九州エコライフステージ

活動目的	九州における下水道広報活動に係る 交流・連携の母体 となる。 下水道の真の価値 を伝え、 活力ある地域づくり に貢献し、 地域に笑顔と元気 をもたらす。
めざす将来像	下水道の真の価値を広めるとともに九州地域に笑顔と元気 をもたらす。
R4の成果	初の連携により、福岡市(参加者 115人)、北九州市(同 400人)において 広報活動を実施 した。両市からは GKPチーム九州との連携を評価 いただいた。
将来像に対する進捗	総会を九州地方下水道協会の総会と連携して九州各地で実施するなど、活動を広げている。今後は 九州地域全域に拡大 していきたい。
課題・改善策	会員数がほとんど増加していない。今後は現役世代を含めて 若年層の会員増加を図る 。また、 法人会員の入会 も働きかけたい。
総括	令和4年の後半より徐々に活動を再開したが、 会員相互の交流 を図れる総会などは、まだ開催できていない。